



湘北短期大学の SDGs について ご紹介するニュースレターです

SDGs (Sustainable Development Goals; 持続可能な開発目標) は、2015年9月に国連加盟193か国が採択した17の目標及び169のターゲットからなります。2030年までに達成すべき地球規模の課題には、貧困や飢餓、ジェンダー平等といった**社会**の課題だけでなく、気候変動対策や海と陸の資源を守る**環境**の課題、技術革新や人間らしい雇用、持続可能な消費と生産といった**経済**の課題が含まれ、「**誰一人取り残さない**」世界の実現を目指しています。

「生活プロデュース概論」

生活プロデュース学科の1年次必修科目「生活プロデュース概論」では、初年次教育として、大学での授業の受け方、情報の正しい得方、レポートの書き方を最初に学びます。その後、各教員は、専門的な内容にSDGsの考え方を取り入れて授業を展開しています。

今年度から、「**生活からはじめる教育**」(開隆堂出版)を用いての授業も展開しています。文字通り、SDGsこそ生活から考える必要があると私たちは考えます。また自分のキャリアも、ワークライフバランスなどの仕事主体ではなく、生活主体で考えるべきことと思っております。

高校生でも理解できる内容となっており、ホームページからワークシートもダウンロードできて授業で使用できます。



湘北SDGs創刊号の「生活とSDGs」の授業内で紹介しました、お笑い芸人たかまつななさんが発案した「**SDGs パパ抜きゲーム**」を「生活プロデュース概論」の授業でも実施。生活プロデュース学科では「楽しみながら学ぶ」を多くの授業でも取り入れています。



湘北 SDGs

2022年度 第2号

今回の発行人 太田 奈緒

ota@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学 生活プロデュース学科

〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

「生活プロデュース概論」 各教員による授業例

講義を聞いて、それぞれの学生が**新たに得た知識**、それをもとに考えたことを共有していく授業展開となっています。

「ジェンダーとファッション」

ジェンダーレスファッションとは、「自分が認めている性別とは異なる側の服を着る」という意味ではなく、社会的性別の枠を取り払い、男女の境界線を作らない自由なファッションのことであり、社会的な性別に対する通念にとらわれず、自分の生き方を自己決定できるようにしようとの思想や、それに基づいた行動を「**ジェンダーフリー**」ともいう。ジェンダーレスファッションとは、このような考え方をファッションで表したものである。



実際に受講している学生(生活プロデュース学科は現在女子のみ)は、スカートよりパンツスタイルの方が圧倒的に多い。一昔前はスカートが大半を占めていた。高校の制服も、パンツスタイルが選べるものを取り入れる学校も出てきた。

「食品ロスはなぜ発生するのか」

食品ロスは日本において増え続けているか? 答えは×。日本の食品ロスは数年前に比べて減ってきている。令和元年に食品ロス削減推進法が施行されたことや、恵方巻などの大量廃棄問題を機に社会全体が気にするようになった。ただし、事業系、家庭系を合わせて一人当たり年間約41kg(令和2年)ある。事業系食品ロスの発生の一因として、今までの**商習慣**による、「**3分の1ルール**」がある。賞味期限まで6カ月ある商品の場合、製造日から2カ月以内にスーパーなど小売に納品され、そこから2カ月間、店頭で販売される。その後、売れ残ったものは店頭から撤去され、賞味期限まで時間があるにもかかわらず廃棄される。一方、フードバンクへの寄付、フードシェアリングなどの取り組みが社会で進み、コンビニでも一部店舗では値引き販売されるようになってきた。みなさんはどう考える?



削減には消費者にもできることがたくさんありそうです。

その他に「**コロナについての基礎知識**」、「**なぜマスクは高騰したか**」、「**あなたの住まいの換気は?**」、「**やりたいことを仕事にするために**」、「**どんな社会で働きたい?**」、「**日本の性に関わるこれまでとこれから**」などのテーマで授業を展開しました。

それぞれのテーマにより、授業後半には、少人数のグループで自分の意見を発表しあう場を設け、同じ授業を聞いていても、重要と感じる点は人それぞれであることや、同じ意見ばかりにはならないことも感じられたと思います。生活の中にある身近な話題をもとに授業を受けたことにより、**自分事として考えるきっかけ**になったのではないのでしょうか。

すべてのことに正解があるわけではありません。答えが一つでない問題に対して、**自分で考え、他人に伝えることができ、他人と一緒に考えを深めて行動していける人**こそ、これからの社会に必要とされる人ではないのでしょうか。

生活プロデュース学科では、仕事においても、自分の人生においても自分で考え決定でき、それに責任を持てる人を育てる教育を目指しています。

